

与えられている資料を読むと、2つのパートからなっていることが分かる。前半が後醍醐天皇の政治改革の様子。後半がそれに対する北畠親房の批判である。

まずは前半の後醍醐天皇の政治改革について考えよう。

設問

A 後醍醐天皇がこの政治改革でめざしたものは何か。3行以内で述べよ。

ここで注意しなければならないのは、問われているのはいわゆる建武新政で天皇がめざしたものである。したがって「鎌倉幕府の倒幕」が答えではない。

後醍醐天皇は鎌倉幕府を倒して 幕府政治 = 武家政治 を否定した。 Aブロック

一身に権力を集中し、「天下一統」を実現した。めざしたのは 天皇への権力の集中(天皇専制政治) であった。 Bブロック

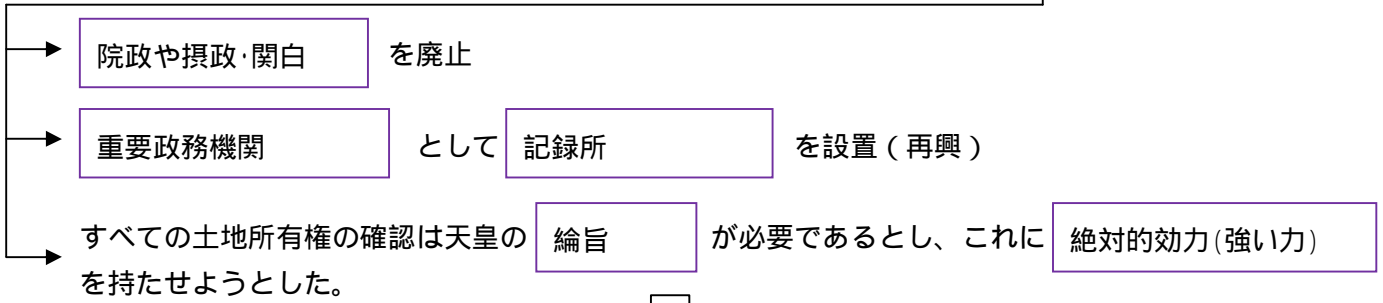
平安時代以来、貴族社会では、「先例」に従うことが正しい政治のありかただとする 当時の 貴族政治 の慣習は、先例 重視であった。考えが支配的であった。

Cブロック

天皇は、「今の先例も昔は新儀だった。私の行う新儀は未来には先例となるだろう」(『梅松論』)という言葉に示されるような意気込みで、つぎつぎに目新しい政治改革を打ち出した。 天皇は 先例 重視の慣習をも改め、目新しい政治改革を打ち出した



ここまでで、大枠は作成できる。「~をめざした。」というまとめ方にするならば、A C Bの順で書けばよい。90字の字数が与えられているので、Cブロックの「~慣習をも改め、目新しい政治改革を打ち出した。」の部分をも具体的に述べるとよい。



武家政治 の否定に加えて、先例 重視であった 貴族政治 の慣習をも改め、院政や摂政・関白 を廃止して 重要政務機関 として 記録所 を設置し、綸旨 に 絶対的効力 を持たせるなど、天皇への権力の集中(天皇専制政治) をめざした。